

平成23年5月25日

水産庁

独立行政法人 水産総合研究センター

平成23年度 日本海マアジ長期漁況予報

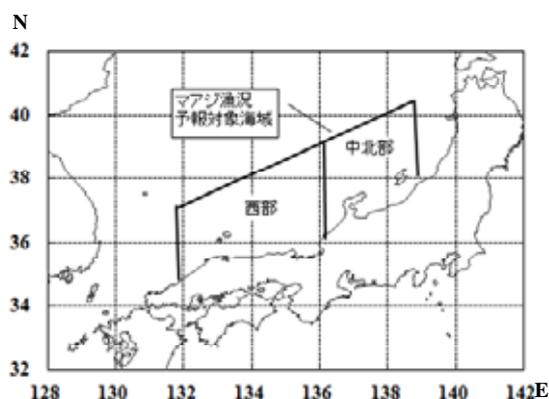
別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果

今後の見通し（平成23年5月～9月）のポイント

対象魚種：マアジ
対象海域：日本海（島根県～新潟県）
対象漁業：まき網、定置網

来遊量
日本海西部・中北部ともに前年並み

「前年」は2010（平成22）年5月～9月
を示す。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 新村、川村

電話：03-3502-8111(内線 6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先 URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

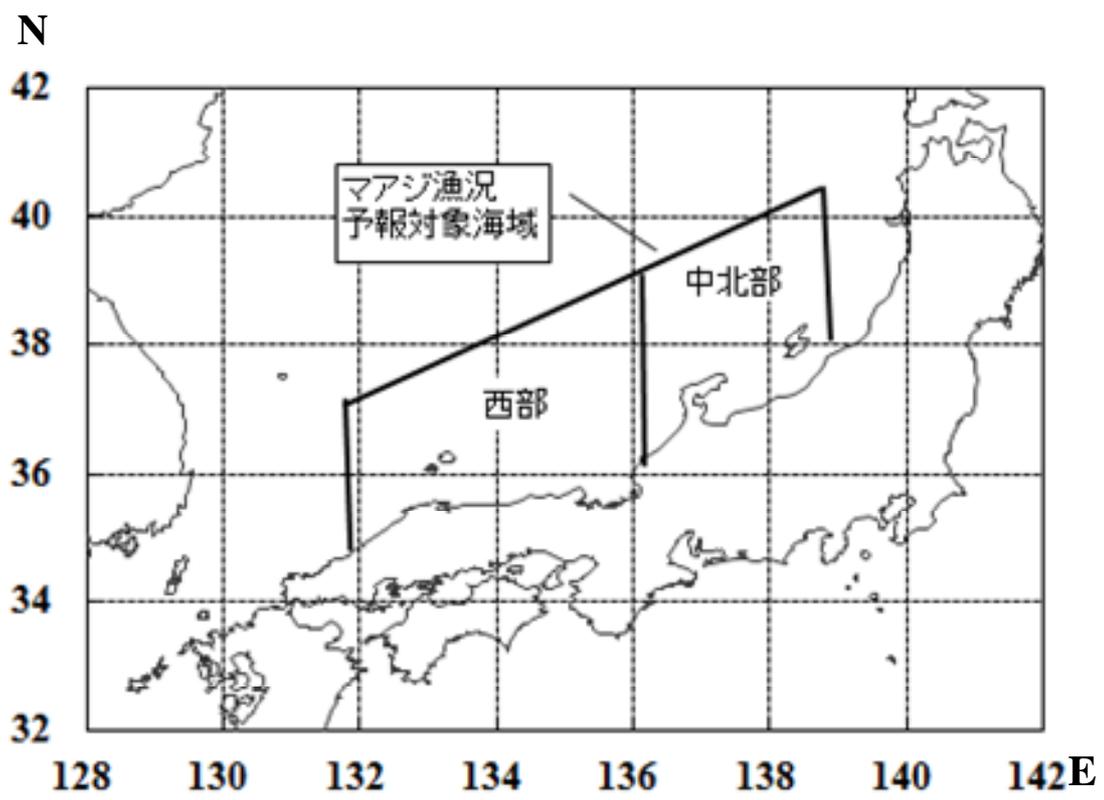
独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先 URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>



予報対象海域

平成 23 年度 日本海マアジ長期漁況予報

今後の見通し (2011 年 5 月～9 月)

対象海域：日本海（島根県～新潟県）

対象漁業：まき網、定置網

対象魚群：0 歳魚（2011 年級群）、1 歳魚（2010 年級群）、
2 歳魚（2009 年級群）

- (1) 日本海西部では 1 歳魚が主体で、夏以降は 0 歳魚の割合が増加し、全体の来遊量は前年並み。
- (2) 中北部でも 1 歳魚が中心で、前年並みの来遊が見込まれる。

「前年」は 2010（平成 22）年 5 月～9 月を示す。また、「体長」は尾叉長で測定した。

漁況の経過（2010 年 4 月～2011 年 3 月）及び今後の見通しについての説明

1. 資源状態

日本海で漁獲されるマアジは対馬暖流系資源の一部であり、その動向は東シナ海域の資源状態と密接に関わっている。日本海における資源の主体は、春季以降に東シナ海から九州西・北部、さらに日本海西部において産卵・ふ化し、0 歳魚として対馬暖流に沿って能登半島以北に分布を広げる。越年して 1 歳魚となると、春季に九州西・北部から日本海西部で漁場を形成し、その後中北部に分布を広げる。その後は日本海での越冬傾向が強くなり、やがて地付き群として日本海で産卵し、中北部で漁場を形成するものと思われる。

対馬暖流系の資源量は 1970 年代後半に低水準であったが、1980～1990 年代前半に増加し、1993～1998 年に高水準を示した。1999～2002 年に資源量は減少したが、2003～2004 年に資源量は高水準に回復した。2005 年以降の資源量は減少傾向を示したが、2008 年と 2009 年の加入量が増加したため、資源量もやや増加したと推定されている。

2. 漁況の経過

2010 年度漁期（2010 年 4 月～2011 年 3 月）における島根県～新潟県の主要港で水揚げ量は 40,000 トン（各府県の速報値等の集計による）であり、近年度（2005～2009 年

度漁期)平均(46,000トン)及び2009年度漁期(2009年4月~2010年3月、51,000トン)を下回った(図1)。

日本海のマアジの漁獲量はまき網と定置網によるものがほとんどであり、例年、定置網の占める割合は概ね20%以下で、まき網によるものが全漁獲量に大きく影響している(図2、上)。2010年度漁期におけるまき網の漁獲量は10月以降概ね2009年度漁期を上回ったものの、9月以前は2009年度漁期を大きく下回ったため、まき網の漁況は全般的に低調であった。また、2010年度漁期の定置網の漁獲量は2011年1月~3月の3か月を除けばすべての月で2009年度漁期を下回って推移し、まき網と同様低調であった(図2、下)。

地域別では、定置網が中心の中北部の漁獲量は、2011年の2月と3月の2か月を除けばすべての月で2009年度漁期及び近年度平均を下回り、低調に推移した。まき網が中心の西部の漁況は2010年10月と11月に好調であったが、特に2010年度漁期の春~夏にかけて2009年度漁期を大きく下回ったため、定置網と同様に全般的に低調に推移した(図3)。

3. 今後の見通しの説明

今後の日本海西部における漁獲の主体は1歳魚(2010年級)で、初夏以降0歳魚(2011年級)の割合が高くなると思われる。昨年の資源評価の結果及び漁況の推移から2009年級(2歳魚)は2008年級を上回る豊度と考えられる。2010年5月~6月に日本海西部で行ったトロール調査によるマアジ稚魚の採集数と水温分布から算出した2010年級の加入量指数は高い水準を示したことから、2010年級(1歳魚)は2009年級群と同程度と考えられる。また2011年級(0歳魚)については予測が難しく今後の海況によって加入量が大きく変動する可能性もあるが、2010年級と同程度と見積もられており(平成22年度第2回対馬暖流系アジ・サバ・イワシ長期漁海況予報、西海区水産研究所)、日本海西部では、0歳魚と1歳魚は前年並み、2歳魚は前年と同程度か上回る来遊が考えられるが、全体の来遊量は前年並みと考えられる。また、日本海中北部については、定置網中心に初夏以降0歳魚の漁獲物に占める割合が高くなるが、2010年級群の加入が順調であったことから、1歳魚を中心にした相応の来遊が予想され、今後の漁況は前年並みと思われる。

日本海に来遊するマアジは、中長期的に対馬暖流域の水温変動と正の対応関係が見ら

れる。期間中 6 月までの対馬暖流域の 50m 深水温は平年並みで経過するとされているが（平成 23 年度第 1 回日本海海況予報、日本海区水産研究所）春先から日本海西部の水温が前年及び特に加入が好調な 2009 年同期に比べて低く推移していることから、マアジ漁況への環境面からの影響を今後注目する必要があると考えられる。

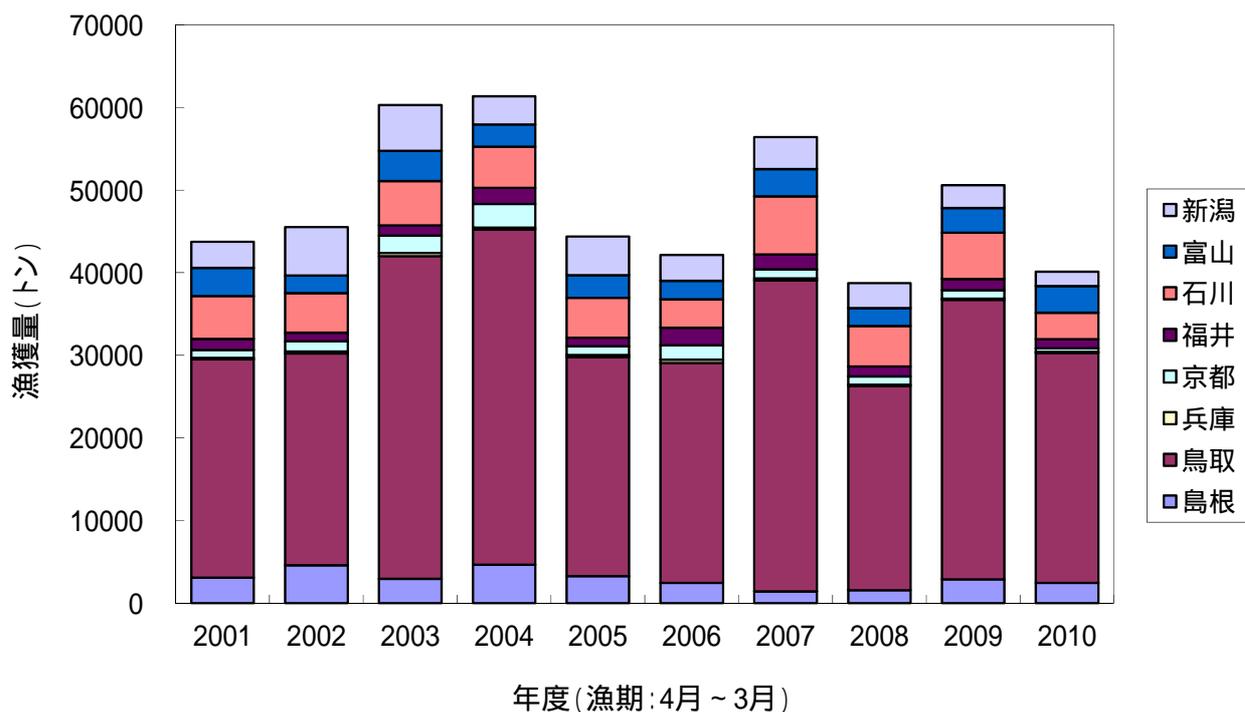


図 1 日本海主要港（島根県～新潟県）の水揚げ量の推移。

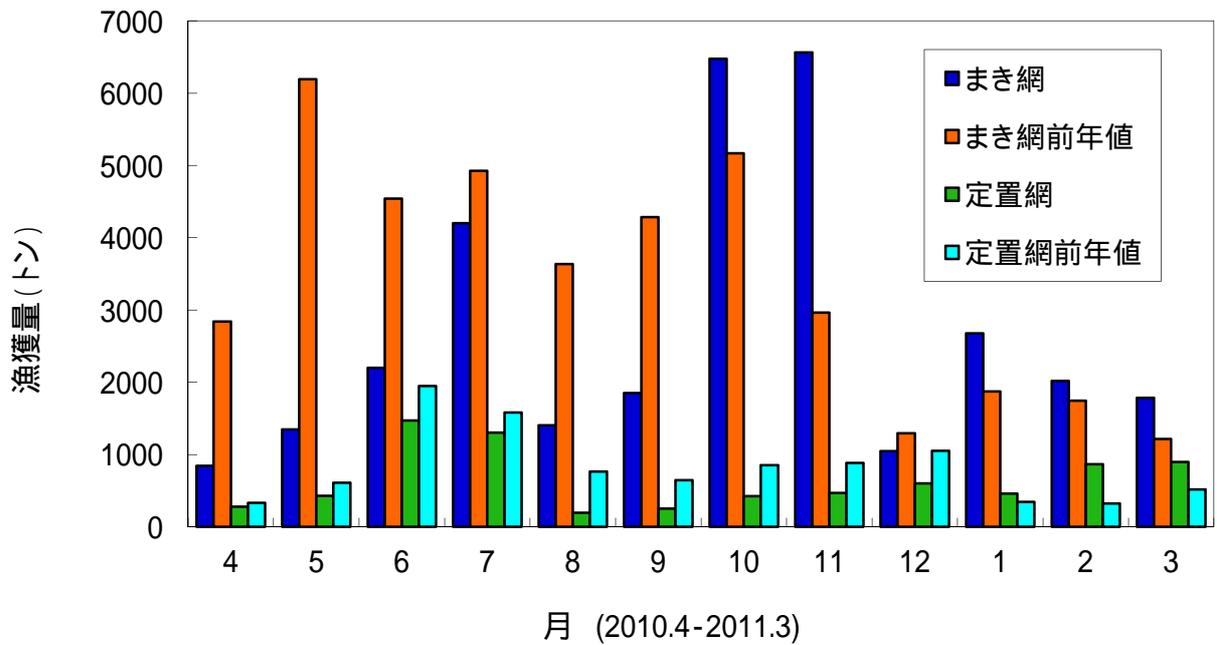
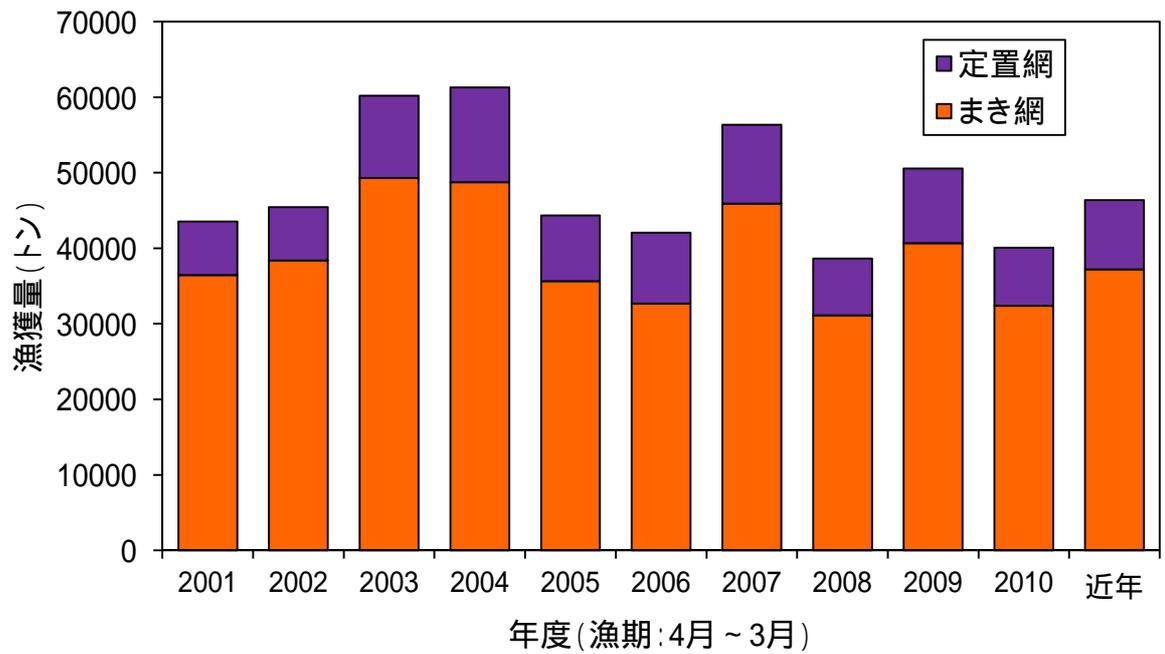


図2 漁業種類別漁獲量の経年(上、漁期年度、4月～翌年3月)と経月変化(下、2010年4月～2011年3月)。近年値は2005～2009年度の平均値を示す。前年値は2009年4月～2010年3月である。

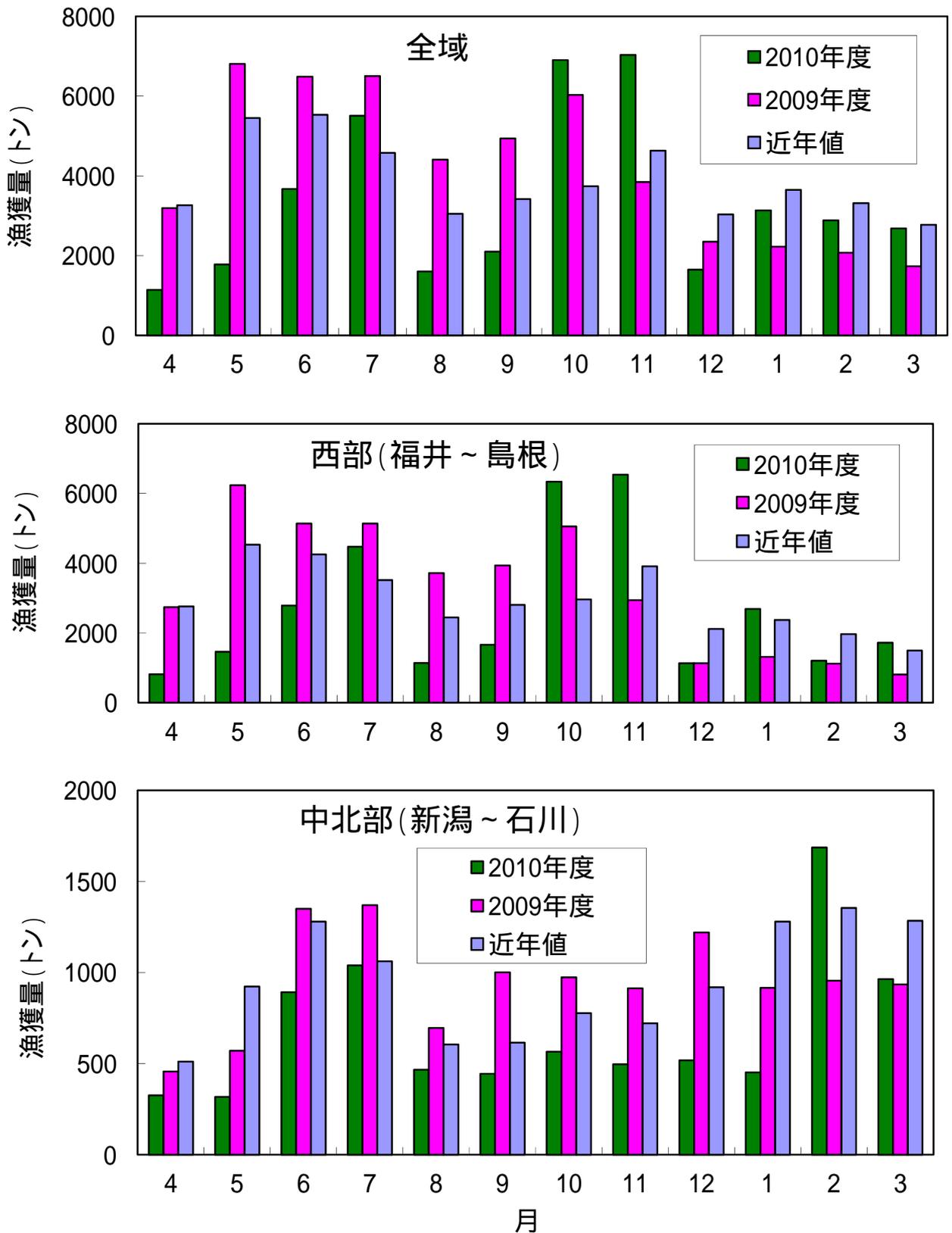


図3 海域別日本海主要港への水揚げの経月変化
 近年値は2005～2009年度の平均値を示す。

参 画 機 関

地方独立行政法人
青森県産業技術センター
水産総合研究所

秋田県農林水産技術センター
水産振興センター

山形県水産試験場

新潟県水産海洋研究所

富山県農林水産総合技術センター
水産研究所

石川県水産総合センター

福井県水産試験場

京都府農林水産技術センター
海洋センター

兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター

鳥取県水産試験場

島根県水産技術センター

社団法人 漁業情報サービスセンター

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

独立行政法人 水産総合研究センター
西海区水産研究所
日本海区水産研究所